式辞

本日、本校の開校百五十周年記念式典を挙行することにあたり豊中市長　長内茂樹様をはじめ、豊中市教育委員会教育長様、
近隣校の校長様、歴代の教頭様、学校運営協議会の皆様、自治会長様、公民分館長様、ＰＴＡ新和会の皆様、地域諸団体代表の皆様にご臨席いただき、創立百五十周年記念式典を挙行できますことを、心よりお礼申しあげます。

本校は、明治六年、一八七三年の創設以来、明治・大正・昭和・平成・令和の五つの時代を重ねて参りました。本日、創立百五十年を祝うことができるのも、ご多忙にもかかわりませずご臨席いただいていますご来賓の方々、関係の皆様方の手厚いご指導・ご支援の御蔭だと心から感謝を申し上げます。

本校は創立以来、「学ぶよろこび」を感じる子どもの姿から、保護者の方々が我が子の成長を楽しみ、また地域の皆様方からの温かい眼差がある、そんな「地域の中の良き学校」を目指して教育活動を推進してまいりました。私がこの伝統を体感したのは、昭和五十九年、一九八四年の春のことでございます。

本校に赴任して間もない私は、学習内容をどのように教えればよいのか、ということばかりを考え続けていました。そんなとき、校長先生からご指導いただいた言葉が今も私に心に残っています。その御助言とは、「子どもは、自分の考えを理解してくれていると感じる先生に微笑み返しをするよ。」というものでした。

あれから三十九年が経ち、私の教育人生の原点を作ってくれた新田小学校に、校長として赴任する幸運に恵まれました。学校経営者としての私の目標は、本校の諸先輩からご指導いただいた伝統をどう守り、発展させるかでした。

今現在、力点を置いている教育課題はＳＤＧｓの考えを、子どもたちに「どのように学ばせるか」でございます。

このため、「新田版学習の四本柱」なるものを策定いたしました。具体的には、「自己教育力」を育む「学び方の学び」、「自律的な行動力」を身に付けさせる「為すことの学び」、多くの人との交流を通して、「共に生きること」のよろこびや安心感を得る学び、これらの3つの学びを生かして、現代社会で起こっている様々な課題を「自分事化」して考える四つめの「人間として生きる学び」を大切にしております。

これは大げさな表現になるかも知れませんが、私はこの新田版学習の四本柱を学んだ子どもたちが二十一世紀中盤の社会を「このままだとやがて来るだろう課題が山積する未来社会」を「一人ひとりの生活がよろこびと安心感に満ちた未来社会」に作り替えてくれることと信じております。

新田小学校をこよなく愛する皆様方の前で、縷々、口はばったいことを申し上げましたが、上新田の先達が作り上げてこられた本校の良き伝統を次世代にバトンタッチし、永遠に歴史が積み重ねられていくよう教職員一同、全力で努力することをお約束して校長式辞といたします。

令和五年（二〇二三）年　十一月二十一日

豊中市立新田小学校　校長　安家　紀子